

ウンカ情報第4号

(「あいちのかおりSBL」など普通期水稻を対象とする)

平成25年9月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トビイロウンカによる坪枯れの発生に注意！

1 トビイロウンカの発生状況

予察灯への飛来は平年に比べてやや早く、大口町の予察灯で6月28日に3頭が誘殺されました。その後しばらく誘殺されませんでした。8月23日に長久手市(農総試)の予察灯で4頭誘殺されました。また、本田のすくい取り調査では、8月上旬に岡崎市、豊川市のほ場でそれぞれ成虫1頭、8月下旬に犬山市のほ場で成虫4頭、豊田市のほ場で成虫3頭を確認しました。8月下旬の本田のすくい取り調査では平年に比べて多い状況です。今後の気象条件によっては坪枯れ(図)が発生するほ場も出現すると思われるので、特に過去に坪枯れが発生したほ場では発生動向に十分注意し、本種の発生を確認したら、表を参考に収穫前日数に留意して直ちに防除しましょう。



図 トビイロウンカ成虫と吸汁加害による坪枯れ(平成21年10月)

表 トビイロウンカに対する主な防除薬剤

薬 剤 名
ベストガード(水溶剤、粉剤DL、粒剤)
MR. ジョーカー(EW、粉剤DL)
キラップ(フロアブル、粉剤DL、粒剤)
スタークル/アルバリン(粉剤DL、粒剤)
スタークル液剤10/アルバリン顆粒水溶剤
スタークル豆つぶ
ダントツ(フロアブル、粉剤DL、粒剤)
アドマイヤー(水和剤、粉剤DL、1粒剤)

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

2 セジロウンカの発生状況

8月下旬の本田調査では、98ほ場のうち、68ほ場で捕獲されました。発生量は平年並ですが(表)、普通期水稻では発生量の多いほ場が散見されました。セジロウンカは出穂期以降、水田外へ移動する長翅型成虫が多くなり密度は次第に減少していきませんが、幼虫の発生量が多いほ場では、今後しばらく発生動向に十分注意してください。

表 セジロウンカの本田生息状況(平成25年8月下旬調査 単位:頭)

調査方法	成虫	幼虫	計
粘着板による10株の払い落とし	1.04 (2.35)	2.74 (3.81)	3.79 (6.16)
捕虫網による20回すくい取り	7.76 (10.82)	4.43 (7.44)	12.18 (18.25)

注1) 県内 98ほ場での平均

注2) ()内は、平年値(平成15~24年の平均)